

令和3年度 西砂学習館運営協議会（令和3年11月）会議録

日 時：令和3年11月16日（木）午後6時00分～午後8時00分

出 席：大槁 加藤 広瀬 浅見 小笠原 長谷川 小林 森 増田

事務局：石川 平井 俣本

欠 席：岩元

1 開会のあいさつ

大槁：11月14日「地域再発見・地元を学ぼう！砂川を歩こう」が無事に完結した。風もなく良い天気で沢山の方に参加して頂いた。普段何気なく歩いている所に凄いことが隠されていることが分かり、この地域が興味深い所だと改めて思った。講師は、若い世代の方に常々参加して欲しいと思っている。今回は小学生が3回連続で参加してくれた。興味を持つ子どももいる。アンケートには「知れて分かって体験できて良かった」とあった。

石川：資料確認。委員の任期についてメールでは任期3月としていたが6月が正しい。

2 令和3年度地域活性化講座について

（1）「気軽に学べる 認知症予防講座」について

- ・日 程 10月30日（土）10：00～11：30
- ・会 場 西砂学習館 視聴覚室
- ・講 師 北部西かみすな地域包括支援センター
座学講義：秋間 さや子 氏、倉嶋 真章 氏
西砂学習館運営協議会委員
音楽体操：岩元 喜代子 氏、藺田 氏
- ・参加人数 15名
- ・スタッフ 委員：3名、事務局：2名

石川：北部西かみすな地域包括支援センターのご協力が無事に開催ができた。岩元委員、ピアノ演奏の園田さんのお二人で音楽の体操ができた。食事についても詳しく資料に書いてあるので参考になる。

大槁：毎日の予防、年に一回脳にショックを与える日として毎年実施した方が良い。

広瀬：毎年開催できたら良いと思う。男性高齢者の参加が少ない。認知症は研究が進んでいる。新しい情報を講師が盛り込み良かった。

大槁：アンケートに「講師がマスクをして話すので聞きとりにくい」とあった。

（2）「地域再発見・地元を学ぼう！」について

○ 砂川を歩こう（講座で聞いたことを確かめよう！）

- ・日 程 11月14日（日） 13：00～16：00

- ・ 集合場所 西武拝島線 武蔵砂川駅 改札
- ・ 解散場所 多摩モノレール 砂川七番駅
- ・ 参加人数 21 名
- ・ スタッフ 委員：5 名、事務局：4 名

石川：前回の倍の距離を歩いた。残堀川の昔のコースや金比羅山神社、見所がたくさんあった。アンケートに「先生がしっかり歩いていたので、疲れたと言えない」とあった。講師は 91 歳だが健脚。講師に長生きの秘訣の講座をお願いしても良いと思った。天気も良く参加者も満足されていた。

大橋：来年お願いするとしたら内容やコースはどうするか。今までの講座である程度見所は網羅できたかと思う。

森：地元を学ぼうと言うことなので、西砂に関連することが良いと思う。この地域を知ってもらふ観点ではこのエリアでやるのが良い。毎年同じ参加者が来るわけではないので、同じ地域の学びで良い。何回も聞くことは無駄ではない。

広瀬：良い講座だった。距離が長かったので後半「堂山墓地」はカットしても良かった。知らないことがたくさんあり楽しかった。

大橋：立川全体を知りたいという方もいるが歩くとなると難しい。そこまで興味がある方は他館で実施する講座に参加して頂き、ここでは地元を学ぶことに焦点化したい。

(3) 「西砂川での災害を考える〈第 5 弾〉」～自治会として何を考えようか～ について

- ・ 日 程 11 月 27 日（土） 18：00～
- ・ 申 込 11 自治会、22 名
- ・ 資 料 調整中（11/18 頃、頂ける予定）

石川：当日の内容や資料は参加されない自治会にも配布して共有したい。

参加）大橋、加藤、広瀬、浅見、岩元、増田（6 名）

3 協議、報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認（議事録）

大橋：何かあれば事務局へ。

(2) 令和 3 年度第 2 回西砂川地区地域学校コーディネーター及び 西砂学習館地域運営協議会 委員の情報・意見交換会

- ・ 日 時 令和 3 年 11 月 9 日（火） 午後 6 時～午後 8 時
- ・ 会 場 立川市西砂学習館 第 1 教室
- ・ 内 容 情報・意見交換、他「前回に作成した 3 つのフィールドで考えられる協働活動等の提案について」

石川：今回は多くの地域学校コーディネーターの参加があり実りのある会議になった。前回

作成の紙を掲示し、追加で意見を頂いた。3 回目の内容や開催時期はどうするか。可能なものがあればやっていくという方向になっていたかと思う。

大橋：毎回このように大々的な会議をもたないといけないものか。地運協のメンバーに地域学校コーディネーターが入っていたら、月に 1 回は情報交換ができる。そのような状況ではないから改めて会議日を設けている。錦学習館運営協議会の市川委員は地域学校コーディネーター、学校評議員でもあり学校とパイプを持っているので話が見えている。個々の委員はそうではないので、意見交換会として会議を持っている。常時話しがつく関係が必要なのではと思っている。そうすると、3 校から 3 名に入ってもらえるのか。資料を見ると、「統括コーディネーターを選出する」となっている。地運協のメンバーに地域学校コーディネーターが入ってくれたら、大きな会議を持つ必要がないので、月に 1 回情報が頂け、やりやすくなるのではと思う。

石川：高松学習館では、地運協に地域学校コーディネーターが自由に参加できるようにとお声掛けをしているが、参加はあまりないらしい。

大橋：地運協委員として受け入れが可能なのか。

石川：委員の定員は 12 名位かと思う。予算の問題もあるので調整は必要。

大橋：このメンバーとして入って頂けたらそれが一番良い。統括コーディネーターとはどのようなものか。その方が委員として入ってくれたらことが足りるのか。

石川：統括コーディネーターの役割は、都の会議への出席と言っていた。全ての地域学校コーディネーターから 1 名の選出になるのではと思う。

大橋：地域学校コーディネーターが委員になり、会議に参加してもらえる方向で調べて頂きたい。

加藤：賛成。企画を共にやることになるので非常に良い。オブザーバー参加という手もある。

大橋：あとは線引きが分からない。地域学校協働本部事業は学校が主体になって考えたものを地域が支えようと言う部分と思う。学習館が音頭をとって動いても良いのか。子ども達に沢山体験させたいと意見がたくさんでた。本部事業では無いと言われたら仕方がないが、地域として学習館が主体となり子ども達の学びを支えたいと意見がいくつもあるので、あれはこれからも会議の中で実現に向けて取り上げたいと思う。活動費はないと活動ができなくなってしまう。

増田：教育部にここは所属している。センターも眺望、考えがなかなか見えない。教育部は教育委員会と一緒に教育長が統括している。予算化されると、手始めに生涯学習係が組織として予算を積み上げていくような仕組みが必要。そのために、市民科、地域学校コーディネーターが都と結ぶ時にどうするか明確化が必要。教育部長や生涯学習推進センター長に教育部としての方針をここで話して貰うことが必要。この前の会合は良かった。どこも地域学校コーディネーターの得意分野だけやっているが、具体的にどのような人がどう行うかを作っていくような方向にもっていかないと分からない。前に育て上げネットの方が先生の困ったことのお手伝いをする事から

学校に入っていた。組織的に学習館として行い、有機的に繋がった形で行わないと、メンバーが変わったら会議自体も終わってしまうことになりかねない。

加藤：地運協のメンバーは12名までなら予算上も許されていると思う。

石川：コーディネーターが参加するときは、地域学校コーディネーターの活動報告を出す謝礼が出る。

広瀬：是非地域学校コーディネーターに地運協の委員として入ってもらいたい。包括支援センターも脚光を浴びている。包括支援センターからも委員として入ることが必要なのではと思う。

大槇：年度末までに3回目の会合を開く。新しい組織についても考える。そうすると話し合いがスムーズになると思う。

(3) 「西一元氣通信」第3号の発行について

- ・10月15日発行（ウェイブサイトみんなの西砂川に掲載）

学校・18自治会配布済、配架依頼済

石川：学校と18自治会に配布済。

(4) 地域学習館運営協議会代表者連絡会の開催について

- ・日時 令和3年10月22日（金） 午後6時30分～8時30分
- ・会場 高松学習館 第1教室
- ・内容 生涯学習スタッフ・関係者研修について/交流会について/
地域活性化講座・事業の連携について/地域課題共有（地運協運営状況）
- ・出席 運営協議会委員6名 各館係長・生涯学習係長・市民交流大学係長
加藤寛治氏（市民推進委員会） 難波敦子（市民リーダーの会）

石川：会長と参加。関係者の研修、交流会の内容、地域の課題、地域連携など話した。

加藤：初めて参加。会長と係長が揃って公の場で話しが出来るのは非常に良い。石川係長から9月の予算見直しでWi-Fiが各学習館に設置する話がでて皆驚いた。

石川：コロナの関係で予算確保ができた。今年度中に設置が必須で業者を検討中。

大槇：このような会議は年に1回はやってほしいと話した。

(5) 地域学習館運営協議会交流会について

- ・日時 令和4年2月19日（土）午後1時
- ・会場 市役所302会議室
- ・内容 複数のグループに分け、特定の議題について意見交換し発表（予定）

石川：今年は西砂学習館が幹事館。夜間やるよりも土曜日午後の開催は経費がかからないのでこの日の開催となった。発表会ではなく、各委員が話せる機会とする。内容は複数のグループで議題を話し発表し、意見を聞く形にすればグループで話しをするなかで、委員同士の交流になると思う。具体的なことは決めていない。内容は、学社一体

の関係、地域学習館に期待されていること。レクチャーを受けグループに分かれる。

大橋：グループに分かれて討議をして、まとめ役が発表する形式が復活する。わざわざやっていることの発表は交流会ではない。せつかく集まるので 1 つのテーマについて意見を出し合い発表することを聞き合うのが良いのではと思う。何を話すか。教育委員会が何を学習館に期待しているのか。講義を受けて話し合いたい。土俵を同じにするには、レクチャー30 分の講義は必要。議題については、広瀬委員「地運協 12 年目を迎えて」、小笠原委員「地域再編成、子どもの居場所」、岩元委員「学習館が中心となり地域とどう連携すれば良いか」等あった。流れとしては、頭にレクチャーを受け、グループ内で話し合い、発表し、共有する。レクチャーの内容はどうか。委員の要望を係長と詰めていく。

森：ここが主催館なので、西砂学習館が知りたいことをテーマにするのが良い。西砂学習館にとっても他館にとってもプラスになる。そう考えると「学社一体をどう進めるか」が良いのかなと思う。それをやるにあたり、事前に内容をお伝えし、地域学校コーディネーターがどのような人か下調べをしないと、レクチャーを聞いてもびんとこない方もいるので下準備は必要。大橋先生が作るパネルを作品展のように並べると時間内ではなくても立ち話でも交流ができる。

大橋：パネルはわずかな時間でも見て頂ければ活動を知ってもらえるので良いと思う。

広瀬：学社一体を一番やりたい。2 月までに教育部が方針の説明をできるのか。

大橋：そこを話してもらえないと学習館も動けない。

広瀬：この時に話しをしてくれとお願いをする。引き受けてくれたら良い。

石川：指導課等、学校が絡む部署は保守的で言ったらやらないといけなくなるので、本当のことを言ってくれないのではと思う。生涯学習系の梅澤はそのような話も聞いていると思う。梅澤は教育大学の研修に参加し学社一体について調べて発表もしているので、情報も集めていると思う。まずは梅澤に聞き、梅澤で対応可能なら梅澤にお願いする。難しい場合は課長か係長で対応できる人にお願いする。ただお願いするにしてもある程度方向性や内容を決めたい。

広瀬：梅澤さんが知っている情報と、教育部としての話しが欲しい。

大橋：地域学校コーディネーターの役割、期待すること、立川市民科等、教育部レベルの話しを頂けると良い。

石川：教育部の話は都の資料をそのまま読むレベルと思う。委員は色々な会議に繋がっているので気にして話すと思う。

増田：できない所をお互いに自覚することも大事。枠を作るのではなくやるのが良い。

石川：まず梅澤に確認し、課長、係長に説明できる人材を聞く。どんなことを話してくれる人なのか分かるので早目に動く。

大橋：私達は色々知らなすぎる。西砂小の市民科授業を見た。子どもは地域の福祉などを調べてパワーポイントにまとめて発表をしている。そのようなことを地域の人にも知

ってもらいたい。小学生から中学生までどのようなカリキュラムなのか。大元が分からないので、学習館に期待されても何をどうして良いかわからない。

増田：今がチャンスと思う。不完全を理解すれば進んでいける。

大槌：持ち帰り思いついたことを事務局に連絡する。精査して決めたい。パネルはできる。話し合いのテーマは、自分達が一番聞きたいことと聞いているのでそこで立てても良い。

(6) フリースペースについて (報告)

小笠原：現状変わってない。年度内に動きがでると期待。

(7) 各委員から報告及び連絡事項 (報告)

加藤：緊急事態宣言が解除になり、部屋の定員制限がなくなった。推進委員会としては、コロナがどうなるかわからないので従来と同じ対応にしようとなっている。

広瀬：まちなっと2P「一番町傾聴クラブ」。傾聴講座は市民科で3年くらい前に指定され中村勝久さん中心に全館で講座を実施。去年は西砂学習館で実施。私も最初から傾聴に関わっているのでメンバーとして関わっている。興味がある方はご参加下さい。

浅見：まちなっと最新号発行。子ども地域懇談会「子どもの貧困」を予定。興味がある方はご参加下さい。裏表紙には包括からのお知らせが載っている。開所時間の変更、メール相談が始まるとのこと。

小笠原：コロナが終息し、行事が再開している。地域の方に協力をお願いできるようになり、地域に出て行けるようになった。ハロウィンが館内で行った。12月は館外行事「炭焼き体験教室」を青梅の森で予定。クリスマスの行事はジュニアリーダーや子ども会に協力を頂く。大阪の子ども施設でクラスターがあったと聞いている。世間が動いている子ども達に感染のリスクが大きくなっている。まだ気が抜けない思いはある。来年度ランドセル来館が無くなり、拡充型放課後教室が始まる。

長谷川：9月24日に6年生を対象に松明回しを行ったとのこと。11月5日役員会を行った。賀詞交歓会の開催を検討している。顔合わせをし、お弁当は持ち帰りの案が出ている。日程は1月9日午後2時から天王橋会館。冬休みパトロールも予定。子ども110番事業について今年見直しをする。任務としては避難してきた子どもの一次保護。このステッカーがあることで、子どもは安心感がでる。それだけでも良いのかなと思う。11月3日中学生の主張大会が無事に終わった。来年は保護者や聞きたい方が来るのができたら良い。毎年全編を皆で読むが内容が素晴らしい。

小林：フリースペースは先が見えていない。見えていないとどうにもならない。待つことにする。

森：西砂パソコン倶楽部では今月も講座を開いた。同じことを何回もすることで身につく。2月はエクセル講座を予定。3月はパソコンスキルアップ講座で「思い出のムービーを作ろう」を計画している。

増田：情報発信に努めてきたが今年は一歩進めていく。議会と行政と市民が1つの問題を一緒に考えていく形をとりたい。的を絞ることが大事。直下型地震を考えたとき、給水車に頼らない水の確保をテーマに考えている。そのことを議会に陳情する。

俣本：11月26日「懐かしい歌をご一緒に」、12月12日「クリスマスコンサート」の申込は受付開始後すぐに一杯になった。コロナに気を付けて実施したい。

平井：11月14日「地元を学ぼう！」に初めて参加。まだこの土地には詳しくない。玉川上水の横を歩いていると、新しい立川市の姿が見えた。20代も楽しめる企画と改めて感じた。これから講座に積極的に参加してこの地域について勉強したい。

石川：ずっと欠員だったが平井がきた。優れた人材が来て安堵している。若くてやる気がある。

（8）地域福祉ウォッチャー調査について（お願い）

○ 3名のご協力をお願い致します。

石川：昨年この時期に皆様にアンケートを書いて頂いた。

長谷川委員、森委員、加藤委員に依頼

4 その他

○ 次回の地域学習館運営協議会の日程について

※ 次回開催；次回は、12月9日（木）午後6時～

<配布資料>

- ・〈資料1〉令和3年度 西砂学習館事業予定
- ・〈資料2〉西砂学習館運営協議会 令和3年度地域活性化講座（案）
- ・きらり・たちかわ たちかわし市民交流大学活動の記録
- ・地域学習館運営協議会（第6期）報告書の作成について（依頼）
- ・「地元を学ぼう」アンケート集計、③配布資料
- ・「気軽に学べる認知症予防講座」・「西砂夜間塾」アンケート集計